

情報通信研究機構

NICT 先端研究

174

奥行き知覚は人に備わる重要な視覚の機能である。環境から目（網膜）に入ってくる2次元の情報を使って奥行きを知るための手がかりはいくつかあるが、そのうちのひとつ

が両眼視差だ。試しには奥行きの大きさに。どれくらい小さなペン2本を前後にずら 応じた位置ズレがある。両眼視差の情報まで奥路を明らかにする研究で見比べてみて欲しい。片眼で見るときは、脳がこの情報を利用して、奥行きが知覚される。知覚機能の個人差はなごきには大きな奥行き 感得られるはずだ。我々の両眼は異なる角度から外界を捉え、両眼に映る像

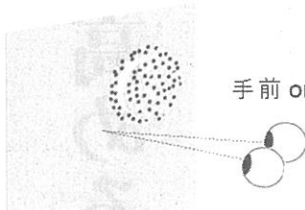
奥行き知覚 個人差、脳構造と関係

未来ICT研究所脳情報通信融合研究センター・脳機能解析研究室 研究員 大石 浩輝

2021年大阪大学大学院生命機能博士課程修了。C iNetには大学院在学中に協力研究員として加わり、同年4月より現職。ヒトの脳構造をMRIを用いて可視化し、視覚情報処理との関係を検証する研究に従事。

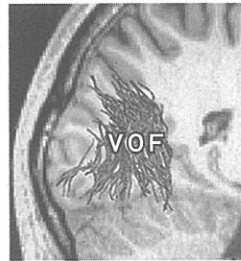


奥行き知覚機能



奥行き判断テスト

神経線維束 VOF



ること、生きている 析が行われている。M 造と奥行き知覚機能の間の関連があることを示唆するデータが得られた。今後より多くの実験参加者を対象とした検証を行い、この線維束と立体視力の関わりをさらに詳しく調べることができると、奥行き知覚機能の改善に役立てる知見を得られることが期待される。また、立体映像はVRゴーグルの普及に伴い家庭に浸透し始めている。C iNetの脳研究は、奥行き知覚の個人差に配慮した立体映像提示技術の開発に貢献することが期待されている。

（火曜日に掲載）